

【部会・分科会活動報告】 2019年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <p>確立した高温性の偏性嫌気性芽胞形成菌の分析方法について3月までに乳業協会、乳業技術協会、精糖工業会、全国清涼飲料工業会に趣旨と詳細を説明。乳業協会、乳業技術協会、精糖工業会様には会員企業様への情報共有化のお願いを実施した。全国清涼飲料工業会においては 5/22 の技術委員会での会員企業への情報共有及び8月発刊予定のソフトドリンクス技術資料に試験法について掲載する方向で調整中。</p> <p>3/28 分科会打ち合わせ</p> <p>試験方法の詳細部分の不具合や修正必要点などの意見交換を実施。</p> <p>ILSI のホームページ等で掲載可能な形で試験方法の文書を再整備する方向で調整中。</p> <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <p>① NITE との 2019 年より 2 年間の共同研究契約の延長に向けた事務手続を引き続き進行中。</p> <p>② 今後の活動方針は以下の 3 点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カビの分析方法についてノウハウも含めて手順化し、公開する。 ・島津製 MALDI 用ソフトウェア (Saramis) の自家ライブラリの作成方法について、島津社と共同で実習を含めた研修会の実施に向け、5 月以降に具体的に進める。 ・菌種同定以外の MALDI の活用可能性を探る。(株レベルでのタイピング等々) <p>③ 分科会リーダーの異動により、後任を選定し、引継ぎ作業を実施。次回(6月)の部会にて報告の上、正式に承認を得る予定。</p> <p>(3) チルド勉強会</p> <p>「芽胞の耐熱性試験法検証」の取組みとして、8社でセレウス菌基準株の耐熱性を測定した。試験法は各社の常法とした。現在、結果を取り纏め中。</p> <p>(4) NGS プロジェクト</p> <p>プロジェクトの締めくくりとして 3/6 に大田区民ホールアブリコで公開シンポジウムを開催した。119 名の参加であった。NGS 技術を食品産業分野で活用するため ILSI Europe と共同で取り組んだ総説文書の内容を含め、NGS 技術の概要と最新技術、食品安全に繋がる活用方法について 5 名の専門家・先生方にご講演いただき、内容について議論、理解を深めた。</p> <p>2. 2019 年度 第 1 回部会全体会議を NGS 公開シンポジウムの会場で開催した。参加者は 20 名であった。次の部会は 6 月に京都芸繊維大学で開催予定。</p>
	食品リスク研究部会	新旧役員で引き継ぎを行うとともに、今後の活動の進め方について協議した(4/12)。
	香料研究部会	

A A T P ロ ジ エ ク ト	<p>概要</p> <p>2020 国際ワークショップ (ILSI Europe 協働)</p> <p>腸管吸収 WG</p> <p>データベース WG</p> <p>定期会議</p>	<p>食品領域における動物実験代替の推進。 参加企業数 15 社 (2019 年 3 月現在)</p> <p>・ 2020 年 10 月 22 日 (木) - 23 日 (金)、横浜で限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて開催予定。 ・ ILSI Europe とプログラム委員会開催。 (3/28)</p> <p>・ 昭和薬大山崎研との協働を進めるべく、先生の動態予測モデルを検証するため、動態データのある食品化合物を収集。 ・ 講演会：東農大清水先生 (6/7)</p> <p>・ 東大庄野先生とデータベースや予測ツールについて議論 (3/27) ・ 食品成分の毒性情報データベース構築に向け、既存の毒性情報収載データベースの収集とそれぞれの仕様に関する整理を実施。</p> <p>次回予定：6/7</p>
バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2019 年度 第 2 回目会議を 3 月 11 日に開催 (1) ERA プロジェクト調査報告書 第 43 号を 4 月発刊、ERA プロジェクト調査報告 第 44 号の勉強会： ・ 10 報の論文をレビューし、意見交換を行った。 (2) GM 微生物食品について： ・ 3/18 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップ準備状況について共有化。 (3) GM 作物について： ・ ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」林先生による報告会 4/26 の準備状況報告。 ・ 2019 IS Biosafety Research (旧称：ISBGMO) 準備状況報告。</p> <p>2. 「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方について」ワークショップを 2019 年 3 月 18 日に明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモンで開催。 産官学 46 名参加 (ILSI Japan 2019 年度活動予算)。 高度精製添加物および食品の安全性評価において科学的な見地からの課題を産・官・学で共有化、議論。今後協働して取り組むことが確認された。 「高度精製添加物・食品の法制度」 厚生労働省医薬・生活衛生局食品基準審査課 医系技官・バイオ食品専門官 三橋康之氏 「高度精製添加物・食品の安全性評価の考え方」 明治大学農学部農芸化学科 中島春紫教授 「申請の現状と今後の課題」 ILSI Japan 協和発酵バイオ(株) 森下幸治氏</p> <p>3. ISBR2019 (タラゴナ、スペイン) 及び本会議後に開催されたワークショップへ先生を派遣。 「The recent regulatory framework of genome editing organisms and foods in Japan」 農研機構 田部井豊先生、筑波大学 大澤良先生 「Comparison in mutation frequency among wild types, tissue cultured mutants, genome-edited mutants, and transgenic lines in rice」 筑波大学 津田麻衣先生</p>	

		<p>「Recent regulatory improvement for ERA of GM crops in Japan」 筑波大学 大澤良先生</p> <p>「Transportability of data for ERA of GM crops in Japan」 ILSI Japan バイエルクロップサイエンス 後藤秀俊氏</p> <p>4. ERA 調査報告書特別号「日本における GM 作物の ERA の発展」を 3 月発刊。 発刊記念講演会報告会を 2019 年 4 月 26 日に学士会館で開催。産官学 48 名参加。林先生の長きにわたる OECD での活動、今後の展望を含め特別号に沿ってお話された。大澤先生による発表の後フリーディスカッションを行った。 「日本における GM 作物の ERA の発展」 ILSI Japan コンサルタント 林健一氏 「日本における遺伝子組換え作物の生物多様性影響評価のこれから」 筑波大学生命環境系 大澤良 教授</p>
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>2019 年度第 1 回目の部会を開催 (2019 年 3 月 8 日)</p> <p>・第 8 回「栄養とエイジング」国際会議 (2019 年 10 月 1, 2 日開催) について、事務局と情報を共有。</p>
	GR プロジェクト	<p>第 4 回 GR 法多施設試験 (2019 年 1 月～4 月)</p> <p>2019 年度農芸化学会大会にて口頭発表、ポスター発表「食後血糖値の予測を目的とした食品の試験管内糖化速度測定法 (GR 法) の開発」 (優秀発表ならびにトピック演題に選出)</p>
	茶類研究部会・茶情報分科会	
食品機能性研究会		
健康な食事研究会	ワーキンググループ 1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	<p>◇WG1: 4 月 16 日東大佐々木研究室で事務局会議。今後の方向性に関して、次回 6 月 5 日 13 時 15 分から 14 時 45 分のミーティングを ILSI Japan 会議室で行う予定。同日第 8 回健康な食事研究会全体会議後 17 時から情報交換会を実施する。</p> <p>・文献検索の結果レポートに関して、「イルシー」誌 139 号に投稿すべく改訂版を準備中。参考文献および評価文献の表現方法の見直し終了後。5 月半ばまでに全員回覧の上、提出する。</p>
	ワーキンググループ 2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<p>◇WG2: 惣菜協会会員各社にアンケート調査を実施するため質問内容案を作成。4 月 16 日の WG2 会議で確認の上、修正。今後、惣菜協会での内容確認、アンケート WEB サイト作成後、同協会から調査協力のメールを送付予定。</p> <p>・外食産業のインタビューを開始する (サブリーダーが外食関係のアドバイザーへヒアリングを実施済み)</p> <p>・次回ミーティング 6 月 4 日 16 時から 17 時 30 分 ILSI Japan 会議室。</p>
	ワーキンググループ 3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	<p>◇WG3: 3 月 26 日健康経営優良企業である A 株式会社を訪問。PDCA をうまく回す方法論や環境を整える個別化の考え方など、参考になる多くの知見を得た。</p> <p>・学校や行政等への追加ヒアリングや結果の集約等、今後の進め方に関して、メールベースで意見交換を実施中。</p>
	研究会全体	◇第 8 回全体会議は 6 月 5 日 15 時から 17 時を予定。

		<p>◇2月21日に行われた、健康な食事研究会進捗報告会のフラッシュレポート原稿6人分の原稿が集まり、安川理事長の冒頭文を依頼。139号掲載予定。</p> <p>◇栄養とエイジング国際会議の発表内容に関して、フラッシュレポートの担当と要旨担当を決める。</p> <p>◇アドバイザーの先生方(8名)に1年間の委任状を4月15日付で送付。メール上で事前に快諾頂き、承諾書を拝受した。</p>
C H P	<p>Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト</p>	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>3/4~6 古賀町社会福祉協議会委託事業として、①古賀町民が出演するテイクテンに関するビデオを作製。②講演会「サロンにおけるテイクテンの活用」実施。サロンボランティア70名参加(古賀町福祉センター, 島根県)</p> <p>3/7 津和野町シルバー人材センター委託事業として、島根大学とのコラボレーションでイベント「しまだいチェック7(セブン) & つわの TAKE10! (テイクテン)」を開催(内容: 体組成/骨密度/動脈硬化度/歩行速度/脚力の測定、テイクテンと食生活チェック表説明)、60名参加(小川公民館体育館, 津和野町, 島根県)</p> <p>3/8 テイクテンリーダー研修、15名参加(津和野町シルバー人材センター会議室, 島根県)</p>
	<p>Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト</p>	<p>NJPPP(栄養事業推進プラットフォーム)の委託事業としてインドネシアおよびカンボジアでの職場(工場)の栄養改善プロジェクトを推進した。両プロジェクトとも2019年3月で完了。</p> <p>3/22 NJPPP第12回運営委員会において、インドネシアおよびカンボジアの職場の栄養改善に関するstudyの結果を報告(三会堂ビル9階 石垣記念ホール, 東京)</p> <p>◇インドネシア End line study および Healthy menu の栄養、コスト解析をボゴール農科大学が実施。結果については、2019年8月に行われるアジア栄養学会議(ACN2019: 於バリ島, インドネシア)で発表する予定。</p> <p>◇カンボジア 7/15の週に、study結果の発表と今後の展開について議論を行うためのworkshopを準備中。</p>
	<p>CHP 全体</p>	<p>The Power of Nutrition(栄養への新たな投資を促進する英国拠点の慈善団体)との連携: 2020年に日本で実施される予定の栄養サミットに向け、Chatham House(英国のシンクタンク)がThe Power of Nutritionの支援を受けて「栄養問題とビジネス」に関するstudyを実施する。ILSI Japanがそのstudyに参加する日本企業を募ることで合意した。</p>
	<p>国際協力委員会</p>	<p>委員会開催: 2019年4月18日(木) 15:00~17:00</p> <p>【議題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一回委員会の議事録のレビュー ・台湾食品添加物規制改正案『食品添加物使用範囲及限量標準草案』について情報共有(特に酵素の扱いと香料の規制についてレビューを行った) ・BeSeTo以外の他支部との連携について相談(BeSeToに参加していない支部に着目して新たな取り組みを検討するため、次回委員会より他支部のHPを参照して勉強会を行うこととする)

	<ul style="list-style-type: none"> ・第 85 回コーデックス連絡協議会資料（食品添加物部会 CCFA）レビュー <p>次回委員会は 2019 年 6 月 10 日を予定</p>
情報委員会	<p>栄養学レビュー編集会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27 巻 2 号、通巻 103 号、発刊 2/22、 ・27 巻 3 号、通巻 104 号、印刷中発刊 5/10 予定 ・27 巻 4 号、採択論文 4 報、翻訳中、監修締め切り 5 月末、発刊 8 月 10 日」予定 ・4 月 5 日に会員全員に宛てた「発刊お知らせメール」で 7 件の新規定購読が得られた。今後継続する予定
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」誌 138 号編集 ・「イルシー」誌 139～141 号原稿依頼検討、編集

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>○第 2 回理事会が、平成 31 年 4 月 26 日（金）に開催された。</p> <p><報告／討議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員入退会 <p>入会 1 社、退会 2 社、退会検討中 1 社、買収・合併による減少 2 社となった。</p> 2. 研究会・部会報告 <ul style="list-style-type: none"> ア) AAT プロジェクト <p>現在 16 社が参加。情報収集・発信活動として「日本動物実験代替法学会」との連携を図るため会員登録した。また来年 10 月 22, 23 日に ILSI Europe との共催として「AAT アジア・ワークショップ」の開催を決定した。</p> イ) 微生物研究部会 <p>3 月 6 日大田区にて「NGS の食品安全への展望」と題し公開シンポジウムを開催した。</p> ウ) バイオテクノロジー研究会 <p>3 月 18 日に千代田区にて研究会メンバー限定の「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方についてのワークショップ」を開催した。</p> エ) ACN (Asia Congress of Nutrition) <p>本年 8 月 4～7 日にバリ島にて開催される ACN にて、「栄養と認知症」のセッションに、愛知県の国立長寿医療研究センターの佐治副センター長に「腸内細菌と認知症」と題する講演を依頼した。</p> オ) 4 月 2 日に栄養とエイジング国際会議 組織委員会開催 <p>会場が正式に「国連大学ウタント国際会議場」に決定した。また会議内容を Nutrition Reviews 誌の Supplement（増補版）として出版を検討中。参加者の応募専用の WEB を開設予定。広報</p>
-----	--

	<p>活動について専任チームをつくり参加者増を目指し今後強化していく。</p> <p>カ) CHP の NJPPP (栄養改善事業プラットフォーム) の活動報告 昨年から今年にかけて、農水省の NJPPP 事業を 2 件受託し、現地での活動内容を報告した。</p> <p>3. 新寄付講座の今後 どのようなテーマで進めるかを議論した。今後の進め方、考え方を次回理事会にて行う予定。</p> <p>4. IUFoST Japan の委任理事の選任 議論の結果、木村元会長に替わり、新たに坂田理事を選任し、松山理事の重任を確認した。</p> <p>5. 本部理事会報告 ガバナンス変更に伴う規程の改定として、本部の理事会の役割と責任、支部総会の役割と責任が決定された。また来年の本部総会の内容、項目等の説明をした。</p>
事務局	3 月よりキックマンの山越純氏が、事務局次長として着任した。